



COMPASS

考える部便り No.13

ご感想・研修へのご意見
お待ちしております。←

NRT と授業改善

4月に2年生以上の学年でNRTを実施しました。客観的な尺度であるNRTを活用することはとても大切です。では、どのように活用したらよいでしょうか。今回は学年や学級単位での活用について考える部では3つ提案します。

① 前年度の学習内容の復習として「アシストシート」を利用する

アシストシートは、図書文化社が提供するワークシートです。NRTを実施した学校に提供されます。それをダウンロードして、印刷したものを宿題や自習用のプリントとして使用することを推奨します。結果に応じて必要な補充問題をサポートする「アシストページ」も利用できます。「学級担任用資料」裏表紙をご覧ください。

② 「知識・技能」と「思考・判断・表現」の観点で傾向を捉える

教科による「知識・技能」と「思考・判断・表現」の観点で正答率（全国比）の傾向を捉えます。どちらが高いかによって、日頃の授業を改善するヒントがありそうです。思考を高めたい場合は、考える場面を確保し、関係を説明する活動を増やすのもよいかもしれません。この改善には、ブルーム・タキノミーを活用することもよいと思われます。

③ 学力が上がる兆しとして「無答率」に着目する

単純に正答率が上がってほしいですが、それは難しいです。そこで、正答率が上がる前の兆しに気付くことから始めたいです。その兆しを「無答率の低下」と考えました。難易度が高い問題でも粘り強く取り組んだ結果、解答欄に何かを書き込めることもあります。これが正答ならよいですが、誤答も成果と捉えたいです。無答率が低いと、偏差値平均も高いように感じます。しかし、「何でもいいから書きなさい」と子どもたちに伝えることが目的ではないです。日頃の授業で**挑む**ことの大切さを学級で共有したり、「間違い」をネガティブに捉えず、「間違いも成功のための大事な一歩である」と価値付けたりすることで、学習へのやる気を高めることが大切です。やる気が高まることで、学習への取り組み方が変わり、学習内容が以前より定着していくと考えました。